

## 第 56 回 春の枳形山 (84m)

第 4 支部 (株) 石倉塗料店

石倉みゆき

平成 24 年 4 月 8 日 (日) 晴れ

場所： 生田緑地 枳形山 (神奈川県) 標高 84M!

‘春の嵐’が台風と化して 3 月下旬に吹き荒れ、その数日後の月末頃になって、気温がやっと上がりはじめたとたん、あっという間に桜が咲き揃い、今回のハイキング、4 月 8 日 (日) は、お花見には二重丸◎、ハナマル❀のお日和となりました。

スタートは、午前 9 時、向ヶ丘遊園駅に、腕？足腰？に覚えのある 13 人が集合！と思いきや、13 人目の方が遅刻をされてしまいました。それでも、全員とても和やかに 15 分くらいですが、到着を待っていました。なぜなら…この会は集合に遅刻をすると、罰金として打上げの会に金一万円寄付とかいう とんでもないルールがいつのまにか出来上がってしまっているからです。コワイですねー。

今回の最初の目的地、日本民家園というところは、向ヶ丘遊園駅から徒歩 5 分のところにある川崎市立の施設で、20 棟ほどの古民家を東日本の各地から移設し野外に展示をしています。展示されている民家は、農家風の棟や萱葺屋根の白川郷風の棟など、色々な形や大きさのものがありません。内部の構造は、ガランとした穀物庫や煮炊場のようなところもあれば、畳敷きの間や囲炉裏のある棟もあり、囲炉裏の周りでは、火をたいて、井戸端会議ならぬ囲炉裏端会議をしている方達がいまいました。お聞きすると、お友達同士でよくいらしているそうです。冬は暖かく、夏は涼しいとおっしゃっていましたが、現代の構造からしますと、冬はとても寒そうに見えました。

民家園は起伏のある地形のところとうまく家々が配置されていて、敷地が広大なのですが、見学の始めには、その広さをよく把握しておらず、のんびりと見学をしていましたら、2 時間くらいが、すぐに経ってしまいました。園内には、民家のほかにも、水車や農民歌舞伎の舞台があり、舞台の下からは人力の廻り舞台の仕掛けを見ることができました。舞台の正面にまわると、段々の石造りの観客席や、老朽化はしていますが、花道もあり、「イヨォー」という掛け声が聞こえてきそうでした。

民家園の見学は、午前 9 時半の開園から 2 時間あまりで終え、その後、枳形山へ向かうべく、長い階段を 5 分ほど上っていきました。頂上には、平らで広い広場があり、すでに大勢の人が座ってお花見を始めていました。私たちのグループも、空いている

場所を見つけ、シートを敷き、皆で持ち寄ったお酒やおつまみで、盛り上がりました。

周りでは、家族連れやお友達同士、学生仲間がお花見をしていて、ブルーシートがあちこちに敷かれていました。中には、簡易テーブルをしつらえて、その上にまるで飲食店のようにズラッとお酒やテイクアウトの豪華お惣菜を並べている、気合の入ったグループもいました。正午を過ぎると、お花見の人はさらに増えて、二百人以上はいたでしょうか、大賑わいでした。広場には高い展望台があり、階段とエレベーターで上がれるようになっていました。休憩の後に皆で上りましたが、四方をぐるりと見渡せる展望台からは、広場の満開の桜や、遠くの都心のビルやスカイツリーまで見渡せて、とてもよい景色でした。

お花見の後は、駅まで下りていき、駅前の居酒屋で、本格的な宴会開始。まだお昼過ぎの1時頃だったにもかかわらず、お店の人に「4時半までしか、ご利用できません」と釘をさされたのは、やはりご商売柄、長くなりそうなお客を見分ける眼力があるということでしょうか。居酒屋でワイワイ、ガヤガヤ、3時頃まで再び盛り上がり、その後は、二次会…三次会…へと続く春の一日でした。

それにしても、桜の季節は、その年によって、寒かったり、雨だったりすることも少なくない中、この日は、桜も満開で、お天気もポカポカ。本当に気持ちの良いお花見でした。今回のお花見は、冬の寒さが長びき、春が待ち遠しかったせいなのか、もしくは、被災地の方には大変申し訳ないのですが、地震から一年が過ぎた心境の変化なのかは、自分でもよくわかりませんが（メンバーに恵まれて…ということもありました！）、ここ数年の中で圧倒的にすばらしく感じました。それで、こんなに日本人を惹きつけてやまないお花見について、ちょこっと調べてみましたー。

お花見というのは、山の神、田の神への厄除け祈願や農作の豊穰祈願、また、公家、貴族に続く武家のお花見の宴などを起源とし、その後、庶民の間には、江戸幕府が財政再建策として行った隅田川堤、上野、飛鳥山、御殿山への桜の植樹を機に瞬く間に広がり、さらに明治時代の植樹により、全国各地に桜の名所ができたということです。

（サクラ トリビア：植樹された桜の8割を占める染井吉野は、江戸末期に染井村（駒込）の植木屋、河島権兵衛さんが、華やかな大島桜と、花の後に葉が出る江戸彼岸桜を交配した品種づくり、それを吉野桜と命名し、後に奈良の吉野のものと混同しないように、染井吉野と改名しました）

ところが、この染井吉野という品種は、自力では繁殖できず、今では、存亡の危機にあるというではありませんか！そこで昨今では、桜を存続させる為に異なる品種で

植え替えが行われていて、将来的には、開花時期や開花期間に変化が起きる可能性もあるそうです。そうしますと、桜とその儚さに思いをはせる日本人の心情もまた変わってってしまうのでしょうか。それでも、どんな桜であれ、暖かい春が巡り、桜が咲き、お花見ができれば、それでいいですね。

世の中に たえて 桜のなかりせば 春の心は のどけからまし 在原業平